

座談会テーマ 「自遊塾ならではの魅力を探る」

塾生 座談会

17年目を迎えた自遊塾。今回、改めて自遊塾の魅力というのを考えてみたいということで、4名の塾生の方がたに、体験を通じての率直な感想や意見を語っていただきました。

ご協力下さった方 小杉 喜良さん 田村 義秋さん 森沢 信彦さん 安田 政廣さん

(五十音順) 司会 経田 博子さん

経田 まず自己紹介を兼ねて、今年どの講座を受けているのか、どうして受けようと思ったのかということからお話いただけたらと思います。

田村 家に閉じこもらないで、会社と違った『新しい人との出会い』を求め、『好奇心』と『感動心』を持ちたいな。持ち続けたいなという想いを持っていた。地区センターでたまたま棚に自遊塾の冊子があり、『さわやかな空の下で歌いましょう』という講座に目があった。行けば新しい出会いがあつて楽しく歌えそうだなという何か直感的なものがあつて。もう一つは何か自分がかくやつたことがないものをやってみよう』と『結びを楽しもう』へ入った。その時に作ったのがこれなんです。(作品を見せながら)講座はなくなつたが今も勉強会という形で続けている。今は『マイボエム 綴る&詠む』を3年受講している。毎年詩集を作っていて、私はパソコンが出来るのでその役割をいただいて、仲間の中で自分の役割があるというのが非常に楽しくて、作ったものをみんなに喜んでいただけて自分も感動をいただいている。

安田 『ハーモニカと健康・音楽・人生』と『越中の山野草と温泉を楽しむ』の2つをやっています。山野草は



4年目になります。会社を退職してから体重が増え、医者からも減量しなさいと言われ、運動量を増やすためのメニューを色々取り入れました。少し歩いても息が切れる状態だったので、花を見ながらブラブラ歩くのであれば、ついていけると思つて参加しました。それでも最初の頃は、とても苦しくていつもビリッケツを歩いていました。他のメニューとも相まって、1年ちよつとで体重は13〜14kg落ちたので、だいぶ楽に歩ける様になりました。

「ハーモニカ」は3年目です。先生

のうたい文句に惚れたのです。もう一度青春に戻りたいと思つて参加しました。年1回の発表会を目指してみんなで一生懸命に練習する時がたのしい。最初の目的は運動量を増やすとか、昔懐かしい楽器の集いと言う事がきっかけでしたが、実際入ってみると、いろんな人達との繋がりが楽しい...という事で止められないのが現状です。

森沢 「山野草」は5年目になります。昨年「富山の絶景を撮る」を受講し写真を撮楽しんでいました。

自遊塾に入った目的は、やはり生涯学習。自分でいろいろ勉強しながらいつまでも頭の中をリフレッシュしたい。そしてコミュニケーションを含めた親睦関係。もう一つは健康。その3つを柱にした目的で参加しています。

カメラが非常に好きなので、花の写真、また眼で見るのとは違う視線でとらえた写真を、ホームページやブログに載せて全国に発表・発信しています。今まで約5年間で、花の種類は約500種類ほど撮りましたので、それをベースに図鑑的なものも作っています。(ファイルを見せていただき、感嘆の声があがる)

もう一つはコミュニケーション。塾生の方がたから名前を呼んで声をかけていただいたりしている。

また、参加できなかった方がブログを見ることによって、講座の内容を知っていたら次回には参加しようかなという意識づけになったらいいなという考えで作っています。

問い合わせとか書き込みによって、塾生の方がたや全国の方がたと「コミュニケーション」をもっています。

あとは健康ですが、立山とか皆さんと一緒にウォーキングすることで、自分の健康管理をしています。目標は一日8,000歩。

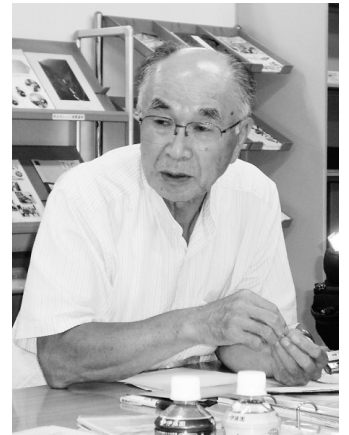
それともう一点、越中富山の観光地を全国的にPRしたいなと思っています。ブログは1日平均1,000アクセスくらいあって全国のファンの方が毎日見て下さっているの、それが励みになっています。

小杉 現在は「越中の山野草」「さわやかな空の下で歌いましょう」の二つをやっている。どちらも10年以上と長い。
山登りをやっているの、頂上まで行く場合はガイドを務めている。「山野草」では、塾生の足を見ながら講座内容のバリエーションを増やすことを役割として担っている。

歌の方は、最近「合唱」をやるようになった。今までは斉唱だったので、講座の中でレベルアップしている。

経田 自遊塾の魅力をどう思われますか？

小杉 自遊塾のスタート時に、自遊塾のモデルとなった静岡県でのフェスティバルに出かけたこともある。



当時に比べ講座数が増えて、ものすごくバリエーションがあるでしょう？その中から選ぶことができるからいいんじゃないですかね。(開始当時16講座 現在58講座)

森沢 パンフレットに書いてあります。自遊塾の主役は、教授と塾生の両方であるというのが大変よいと思う。

田村 魅力と言つか、それぞれ60年70年の人生を経ていろいろな仕事をしてきて、ある意味人生のベテラン。それまでやってきた自分の得意部分をまだまだ伸ばして、できたらその中で自分の役割を作ってみんなからある程度慕われない、自分自身のいいところを出したいという気持ちもある。

もう一つは、会社人間だったために趣味というものを何も持たずにやってきてしまった。元気にこれからを過ごしていくために何か新しい趣味を持ちたいと思った。

自遊塾にカリキュラムがたくさんあるというのは、それぞれの得意分野であったり、あれができたらいいなといううらやましさを満足させてくれるもの。

小杉 元々学生時代から山に関わっているの、「山」というテーマに惹きつけられるんだね。

森沢 いろんな講座を受けてきて、今のところは「山野草」「絶景を撮る」と自分なりの1つの方向性を見出してやっている。

安田 学校の授業と違って、参加している人がめいめいに、自分の関心のあることに向かっています。自分の魅力が魅力。

経田 先ほど田村さんが、魅力の1つとして自分の役割を見つけたということでしたが、どうやって、自分の役割なりテーマを見つけたんですか？

田村 僕も手伝わってやっていくうちに、

教授が何でも全部できるわけではない。世話の分担が必要だと思う。何となく自分でかかってでてる人もいるし。例えば、年1回の旅行時の会計担当やスケジュール調整においても、その人はそれをやっていることで楽しんでいるし、私たちも頼りにしている。

小杉 多人数だと、班を作るようになるんですよ。

経田 県民教授と塾生と両方で作っていくのが自遊塾といいながらも、つい県民教授が一人です。次のステップとして分担してもよいだけの人を育てる、人を信用することも大事。

私自身もヒントをいただきました。皆さんのように魅力的だと思ってくださる方がいる一方で、自遊塾の存在そのものも知らない人も多い。知ってもらうためにはどうしたらよいでしょう。

安田 他の講座案内のパンフレットの中で、自遊塾がありますよと知らせる他の講座との連携性を持たせては？

田村 団塊の世代、手前の人たちは案外出てこない。ちょっと引込み思案のところがあるのか、それとも他に趣味があるのかわからないが。

時間的なもの・曜日の設定や連続講座ということで、束縛されるという感覚があるのでは？実際に入ってみればそんなことはないんだけど。

小杉 だけども、「合唱」休まないで来る人が多い。一方的にしゃべるのではなく、楽しくなるようなムードにしてあげないと来ない。

田村 休むと遅れてしまい、来づらくなるということもあるのでは。

経田 塾生同士の交流する機会が少な



いので、自分の講座はわかるけど他はわからないところがあるかもしれないですね。

田村 日程でバッティングする。重ならないように選ぶのが難しい。

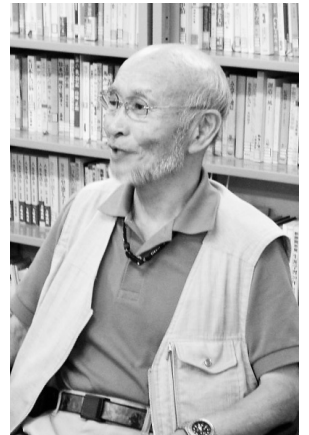
経田 講座受講の成果はどうですか？

森沢 ブログで発信しているんですが、1年間の講座の様子を編集してスライドショーにしています。

田村 「ポエム」では、最近、少しずつ期限内に作品を出せるようになってきたので、成長したかなと。先生がうまく褒めてくれたり少し注意をしてくれたり、それぞれの人の特徴を先生が見てくれて伸ばしてくれている。仲間との楽しさを得ている。

小杉 県民教授と塾生がお互いに切磋琢磨して、成長していくというのは素晴らしいね。

経田 上達を目指すのも自遊塾だし、楽しむっていうのも自遊塾だし、いろいろな目的がある、1つじゃないというのも自遊塾の良さですよ。



事務局 今年も募集期間を4週間、週間と延長した。新規の申込者が200名増え、今年、1,000人の講座申し込みがありました。1,000人というのは富山県の人口の1000分の1。

ただ、「自遊塾って自遊館とどこが違うんだ？」とよく聞かれたりします。広報はまだまだ足りないと思います。今回YouTube「メモらない」とで広報した効果が大きかった。広報はほとんどんしていかなきやいけないと思います。1番の広報は口コミなんです。「魅力」を広報してもらっています。講座の広報はカレッジがやります。魅力の広報は皆さんにしか出来ないんです。

経田 この記事をご覧になった方から広がっていくことも期待したいかなと思います。

自遊塾が魅力的であるためには、県民教授もそうですが、塾生の皆さんが生き生きしていることでしょうか。「どうしてそんなに生き生きしているの？」って聞かれたら、「自遊塾があるから」と答えてくださる方が増えれば、と思います。

自遊塾を受講して

鉾井 文明

私は今年度で自遊塾受講13年目になります。

受講を通じ職場や地域以外の人脈形成をして、生活をより充実させたい、というのが当初の受講動機ですが、当時はこんなに続くとは想像もしてませんでした。継続できた理由を改めて考えてみると、講座を通じての沢山の学び・新たな仲間達との出会い・感動があったからこそだと思います。

本当に今迄出会った県民教授・塾生の皆さんに感謝の思い一杯です。

この13年間、「アクティブライフ設計塾」「創造的問題解決の手法」「蕎麦打ち」「歌と文化で学ぶ韓国」様々な講座を受講してきましたが、今年度は3年連続受講の「コミュニケーションに活かすコーチング」と、初受講の「実用万象楽で自分発見！コミュニケーション講座」の二本立てです。

以下、箇条書きで自遊塾への思いを書き連ねてみました。

Q1 自遊塾の魅力

- ・58講座という豊富な選択肢から自分の目的・要望に合った講座を選択できる。
- ・塾生も運営に関わることが可能なため、県民教授と塾生による双方向スタイルで塾生自身の成長が促進されている。
- ・塾生は皆さん前向き思考で、講座や交流を通じて、自分自身のモチベーションも更なる上がる。

Q2 講座 塾生を引き付けている魅力

「コーチング講座」・「自分の目的とつたり合致した内容であり、非常に満足している。前述した「双方向スタイルで塾生自身の成長が促進」の実証が出来る。

「実用万象楽で自分発見！コミュニケーション講座」・「解っているようで解っていない自分のパーソナリティを客観的に確認でき、今後の講座も非常に楽しみである。また、コーチング講座との相乗効果も期待できる。

Q3 塾生を増やしていくには
現役世代が参加できる講座を増やす（現

状、開催時間帯が平日日中の講座が多い）・・・。但し、今後の人口動態を考慮すると、どうしても熟年世代以降を主体に構成せざるを得ないか。各種メディア等を通してPR活動が必要。（県民カレッジ・インターネット市民塾との更なる連携も必要か）
既塾生の口コミ（最も効果が大きい）

Q4 講座受講の成果は？

着実に成果は上がっていると思う。また、塾生仲間が切磋琢磨し、成長の喜びを共有できることで、より一層の成長を目指している。

いずれは自分も県民教授として講座を持てれば、との思いも年々膨らんできている。今後はその思いを現実にするために更なる成長を継続したい。

Q5 今後、自遊塾に期待すること

- ・私のような現役世代の積極的な参加（県民教授・塾生問わず）
- ・自遊塾全体の、講座の垣根を越えた交流（各種イベント・体験講座開催）
- ・受講生の実質参加率向上（1〜2回で来られなくなる方も結構多い）

《参考意見》私の考える続く講座
・普遍的に受講ニーズのある講座
・講座のねらい・最終目標が明確な講座
・県民教授の情熱があり、人柄も良い。
・塾生が講座運営に協力的な講座

これらの条件があれば、長年続く講座となり、新規開設講座でも口コミで年度以降の応募も増えると思います。

まとめとして

自遊塾を通じて自分も含めて県民教授・塾生の皆さんが自己向上を実現し、それが結果として地域活性化に繋がればこんなに素晴らしい地域活性化はありません。それを実現させていく可能性が自遊塾にはあります。今後、より多くの方の参加を切に願います。

最後になりましたが、改めて自遊塾に出会えたこと、そして運営に関わる全ての方がたに感謝します。

第23回学遊祭日程

日時 10月8日(土) 10:00~16:45

会場 富山県教育文化会館

- < 2 F ホール > 【上映会】10:00~10:30 富山県映像センター制作郷土学習教材
「越中を拓く一椎名道三と十二貫野用水」
- 【式典】10:45~11:15 単位認定証授与、生涯学習団体表彰
- 【ステージ発表】11:45~14:15 生涯学習団体、自遊塾
- 【講演会】14:45~16:15 ルー大柴 氏
- < 1 F 集会室 > 【展示】10:00~16:45 富山県生涯学習団体協議会、県民カレッジ友の会「雷鳥会」、
富山地区生涯学習団体協議会、生涯学習団体、自遊塾
- < 203号室・304号室・401号室 > 【学習活動のミニ講座、展示】10:30~14:30 自遊塾、生涯学習団体
- < ハイビジョン学習室 > 【映像フェスティバル】12:00~14:30

自遊塾・県民教授・第1回交流会について

自遊塾・県民教授・第1回交流会を7月31日(日)に砺波の散居村ミュージアムにて開催しました。

9名の参加があり、ミニ講座2つと自己紹介兼自分の講座の内容について、交流をしました。各人各様の講座開催の思いについて、お互い参考になる点が多く、よかったです。

コーヒー、お菓子と新茶(福岡県の八女茶、静岡県の掛川茶)を頂きながら、意見交換しました。

参加者のコメント

東京からの受講者参加によるあらたな刺激あり、文化の交流からあらたな価値づくりが進行。豆本での起こし絵製作。装丁は銀を使う。

各講師の方々のそれぞれの特色ある講座の様子が伺えてとても参考になりました。まずは、講師自身が楽しみ、受講生の意欲を引き出すような工夫が必要だと感じました。

他講座の状況がよく理解できました。参加県民教授の熱意が伝達されて大変感動しました。

県民教授の交流の機会が得られてよかったです。他地域でも開きたいと思う。

普段交流のない県民教授の人たちとどのような講座をどのようにやっているのかいろんな話を具体的に聞いて興味深かったです。なかなか富山市まで行くのは遠いのでこれからも砺波、せめて高岡あたりで交流会があれば参加したいと思います。

県民教授の皆さんが講座のうしろだてにしているもの、学んでいること身につけていることの深さを知ることができてよかったです。講座のミリヨクは人のミリヨクだと思えます。私もミリヨクを高めたいと思っております。

本日はお世話になりました。ありがとうございます。各々の方の講座内容を少し知ることが出来たこととてもよかったです。ありがとうございます。



自遊塾県民教授として山野草の講座を14年間担当され、第7代塾長も務められた、加藤利雄さんが8月5日にお亡くなりになりました。ここに県民教授の方々から寄せられたお悔やみのことを紹介し、自遊塾を愛し、長年にわたり講座を育ててこられた功績に敬意を表すとともに、加藤利雄さんのご冥福をお祈りします。

・加藤さんの穏やかな笑顔を思い出しております。心からご冥福をお祈りいたしております。

・各方面に多くの成果を残され、特に自遊塾には、大先輩として道を拓いてくださいました。

・折りに触れ各種の行事や教授会などの行事に参列されており、その優しい笑顔と語り口が聞こえてくるようです。ご縁があって、触れ合い、助言していただいた事を思い出します。

・とても悲しく・寂しいお知らせですが、最後まで自遊塾の活動をなさっておられたことに對して尊敬の念を禁じ得ません。一つのことを一生続けていける氣力と技を持ち続けたいと願う昨今です。

・自遊塾の姿を天国から見てくださると思います。加藤さんの意思を受け継いで自遊塾を担わせて頂く一人として、出来る限りのお手伝いをさせて頂きたいと思えました。

23年度県民教授会役員

塾長	熊木 保子
副塾長	齋藤 允忠 水須 忠
広報部長	遊道 直美
広報副部長	古川 圭子
交流・研修部長	平田 清志
交流・研修副部長	並木 恵美
出前・庶務部長	柳原 正年
出前・庶務副部長	大塚 裕一